

1. 目的

将来にわたって公共交通を維持していくためには、ネットワーク全体でサービスを維持しつつ、利用者の利便性の向上を図る新しい移動手段の確保が重要である。過度に自家用車に頼らない暮らしやすいまちを実現するため、新たな移動手段となるコミュニティ交通の導入を検討する。

例)



▲AIデマンドタクシー

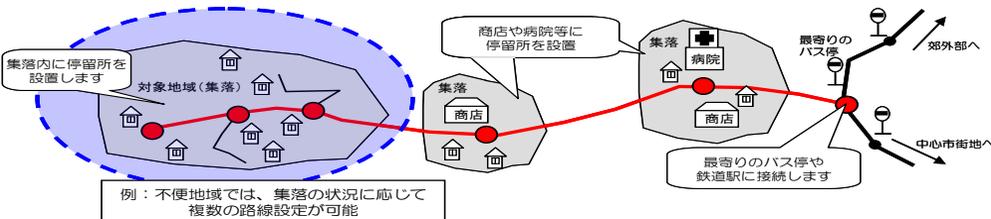


▲グリーンスローモビリティ

2. 現状・課題

- 現状
 - ・公共交通空白地域等において、デマンド型乗合タクシーを21路線運行。
 - ・運行便数は1日4便、8往復で、運行路線は、専用の停留所を設置し、空白地域等から最寄りのバス停・鉄軌道駅への接続を基本とする。
 - ・利用状況は、300人に満たない路線が16路線（約76%）

【路線のイメージ】



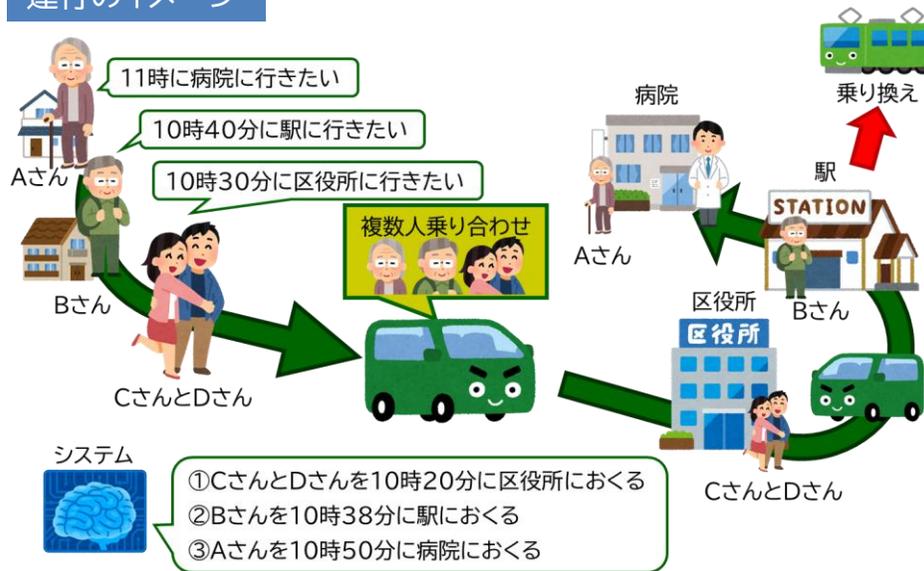
- 課題
 - ・高齢社会を背景とした、高齢者の免許返納後の移動手段の確保が急務
 - ・現行制度では、多様な利用者ニーズに対応が困難
 - 接続先が最寄りのバス停、鉄軌道駅のみ
 - 運行便数が決まっている など

既存制度とは別の新たなコミュニティ交通の導入を検討

3. 今年度以降の取組

- 今年度は、AI技術による配車システムを活用したデマンドタクシーの社会実験を、市街地部・郊外部の2つのエリアで行い、地域特性に応じた新しい移動手段の仕組みを検証する。

運行のイメージ



期待される効果

- 自家用車に頼らなくてよくなる
- 移動の選択肢が広がる
- 送迎しなくて良くなる

行政



- きめ細やかな移動ニーズへの対応
- 自家用車からの転換
- 公共交通との連携強化による相乗効果

- ドライバー不足の解消
- 効率的な運行による生産性向上
- タクシーの利用拡充



利用者



タクシー事業者